

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

1 学校教育目標	○地域の未来を創出する人材の育成 (1) 他者とのかかわりを通して自己を見つめ、豊かな人間性を備えた生徒を育てる。 (2) 確かな教養に裏付けされた専門的知識・技術を有し、地域の未来を見据えて主体的に学び続ける生徒を育てる。					
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来のリーダーに必要な、公共の精神と対話・コミュニケーション力を身に付け、仲間と協力して課題解決することができる生徒(うごかす力)</li> <li>・基礎学力を着実に身に付け、自分自身の将来を見据えながら自ら学び続ける意欲を身に付けた生徒(つなぐ力)</li> <li>・グローバルな視点で地域社会の将来を展望し、商業、生活産業の各分野で、スペシャリストとして活躍する力を身に付けた生徒(つくりだす力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人ひとりの個性や適性に応じた学びを実現するためのカリキュラム編成ときめ細やかな指導の実施</li> <li>・ICTを活用し、自ら学び続ける意欲を持たせるための「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学び」の推進</li> <li>・SDGsを意識し、変化する産業構造を見据えながら地域の大学や産業界との連携、協働による実践的な専門教育を推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動や生徒会活動を含めた学校でのあらゆる活動を通して、自己を見つめ、仲間と協働し、人間性を高めようとする生徒</li> <li>・向上心を持ち、自ら学び続けようとする主体性のある生徒</li> <li>・商業・生活産業に関わる学習内容に興味があり、地域社会で活躍する「夢」に向かって努力する意欲のある生徒</li> </ul>			
3 現状の分析	○商業科及び生活産業科を併置する専門高校として、特色ある専門教育を実施し成果をあげている。 ○地域と連携した地域貢献活動やボランティア活動、挨拶・身だしなみやマナー指導の取組が評価されている。 ▲入学志願者が定員に満たない状況であった。					
4 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、商業と生活産業の教育目標達成のために地域や企業等と連携して実践的な学びの推進をする。</li> <li>・学習指導及び部活動指導その他校務分掌に関わる長時間勤務や多忙化解消に向けた取組の推進をする。</li> </ul>					
5 今年度の具体的な重点目標	◇基礎学力を着実に身に付け、自分自身の将来を展望し、主体的・対話的で深い学びを通して、自ら学び続ける意欲を身に付けた生徒を育成する。					
年 度 目 標		年 度 末 (途中) 評 価				
6 評価項目 領域・分野	7 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	8 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	9 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	10 評価 A・B・C・D	11 成果と課題	12 総合 評価
生徒指導 特別活動	①校則の見直し	①生徒、保護者、地域等の声	①生徒や保護者からの要望及び学校関係者からの意見を検討	B	○身だしなみチェックの直し ○体育・文化行事の実施方法や内容の見直し ▲望ましい人間関係の構築	B
	②体育・文化行事の実施方法等 の見直し	②アンケート	②工夫した行事の実施	A		
	③様々な活動を通して、望ましい人間関係の構築	③アンケート	③いじめ認知件数減少 SNSへの書き込み等のトラブルが増加	B		
学習指導 進路指導	①個別最適化を目指した学習指導の実践	①定期考査、検定合格状況	①成績不振者の微増及び商業科で上級の検定合格率が低下、生活産業科で保育検定2級の合格率が上昇	B	○複数人の国公立大学への挑戦及び合格 ○ICT機器活用授業 ▲基礎学力定着を目指した学習指導 ▲スタディサプリの活用	B
	②自己の在り方・生き方を考え主体的に進路選択をするための支援	②進路結果及び振り返りシート	②進路希望の100%実現	A		

	③主体的・対話的な深い学びができる環境の実現	③授業評価、研究授業、アンケート	③ICTを活用し、「主体的、対話的で深い学び」や「探求的な学び」を推進している(よくあてはまる、ややあてはまる) 84.0%	A	
専門教育	①地域や企業と連携し、協働的・体験的な活動を通して実践力やコミュニケーション能力の育成	①アンケート	①授業に満足している 96.6% 地域の機関や産業界と連携・協働し実践的な専門教育を推進している(よくあてはまる、ややあてはまる) 84.0%	A	○地域や企業との連携事業の実施 ○デジタル化社会への対応 ▲世界の社会や経済動向に目を向けた取り組み ▲空調設備が設置されていない商業・家庭の実習室の整備や老朽化した空調設備の更新及びグラウンドの整備
	②世界の動向を見据え、伝統的な産業文化の継承・創造に関する教育の充実	②学校運営協議委員等からの感想等	②学習成果発表会を来賓を招いて体育館で実施し、その様子をケーブルテレビやYouTubeで配信	B	
	③施設・設備の整備	③アンケート、	③施設・設備は、学習環境の面で満足できる(よくあてはまる、ややあてはまる) 生徒 83.0% 保護者 70.0%	B	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月25日

- 学校全体で成果と課題が明確にされて、常に点検されている。
- 先生方の熱心な指導により、専門的な知識や技術が身に付けられている。
- 地域に密着し、地元を盛り上げようと努力している取組みがされている。
- ▲コミュニケーション能力を養うために、共同で体験的な学びが必要である。
- ▲様々な取組みの中に目標値を数値化することが大切である。

## 13 来年度に向けての改善方策案

- ・生徒の学習状況を分析し、有効な指導を検討します。
- ・共同で体験的な学習場面を取入れていきます。
- ・より高い目標を掲げ、チャレンジする進路指導を行います。
- ・担任や学年、部顧問との連携を図り、早期から心のケアや悩みの解消等に向けた対応に取り組みます。